

# 翻訳者の目線2013

日本翻訳者協会(JAT)のエッセー集「翻訳者の目線」は、9月30日の「世界翻訳の日」を記念して、2012年に初めて出版されました。昨年の「翻訳者の目線2012」にはJATに所属する翻訳者と通訳者合計58名から、翻訳、通訳に関して同業者や世界の人々に広く知ってもらいたいことをまとめたエッセーが寄せられました。今年も「翻訳者の目線2013」を出版することとなり、翻訳経験が浅い人、ベテラン、発注者、編集者、校正者などの手助けとなるようなエッセーの寄稿を広く会員に呼びかけました。

今年は熱心なJAT会員から、翻訳者・通訳者の視点で書かれた、読者の世界観を変えるような67編のエッセーが集まりました。「翻訳者の目線2013」には、私たち一人ひとりを啓発してくれる貴重な情報がぎっしりと詰まっています。

この冊子をお読みになって、言葉の後ろに隠れた翻訳、通訳の世界のことを少しでも皆様にお分かりいただければ幸いです。そして日々努力を続ける翻訳者・通訳者の皆様の励みになることを祈っております。

ePub版

MOBI版(Kindleなど)

PDF版のダウンロードは、こちらから:

[http://jat.org/ja/news/preview/translator\\_perspectives\\_2013/](http://jat.org/ja/news/preview/translator_perspectives_2013/)

Translator

Perspectives

2013

翻  
訳  
者  
の  
目  
線

JAT

JAPAN ASSOCIATION OF TRANSLATORS  
特定非営利活動法人 日本翻訳者協会

## JATとは?

日本翻訳者協会(Japan Association of Translators、略称はJATで「ジャット」と読みます)は1985年5月、翻訳者(通訳者も含む)のための情報交換の場を設け、それによって翻訳の品質を向上させ、翻訳をさらにやりがいのある仕事へと高めることを目的に設立されました。2001年以降、東京都認証の特定非営利活動法人(NPO法人)として活動しています。

「実際に翻訳を行うのは、翻訳会社ではなく翻訳者個人であり、翻訳という職業の発展のためには、個人翻訳者の関心事や利益を重視すべきだ」という基本理念のもと、会員資格は個人に限定されています。現在、会員数は650名を超え、その多くは日本語・英語間の翻訳に従事していますが、最近では通訳者や日英以外の言語を扱う翻訳者の活動も活発で、組織の多様化が進んでいます。

[http://jat.org/ja/what\\_is\\_jat/](http://jat.org/ja/what_is_jat/)